

市立旭川病院

中期経営計画 中間実績評価書

中期経営計画と平成18年度～平成20年度実績

資料	ページ
病院運営に係る取組（実績）	－ 1～2
経営計画と実績（財政状況）	－ 2
経営収支見通しと実績対比	－ 3
【経営指標】の実績と評価	－ 4～5
主要指標の類似病院との比較	－ 6

病院運営に係る取組(実績)

「重点施策項目」	取組事項		
	平成18年度	平成19年度	平成20年度
◆ 高度・特殊・先進医療の推進	平成18年12月 化学療法センターの稼働 外来棟4F 面積約106㎡	平成19年4月 糖尿病センター外来の稼働 外来棟3F 面積約95㎡	平成21年2月 地域がん診療 連携拠点病院に指定(H21.4 月～H25.3月)
◆ 外来診療体制の再編		平成19年4月 脳ドックの開 始	平成21年2月 緩和ケアチー ムの設置
◆ 高度医療器械の整備	平成18年12月 MRIの更新		平成21年2月 血管造影装置 (IVR-CT)の更新
◆ 安全性の向上			
「医療安全対策委員会」	委員会毎週開催 研修・講演会の実施 (手術、化学療法等における 安全性向上の取組)	委員会毎週開催 研修・講演会の実施	委員会毎週開催 研修・講演会の実施
「リスクマネジメント委員会」	委員会毎月開催 PDA(患者リストバンド・携帯端 末)の導入	委員会毎月開催	委員会毎月開催
「感染対策委員会」	委員会毎月開催 その他研修会、講演会の実 施	委員会毎月開催 リンクナースによる環境点検 研修・講演会の実施	委員会毎月開催 リンクナースによる環境点検 研修・講演会の実施
◆ 看護体制の充実		平成19年4月 従来の13:1か ら10:1を取得	
◆ 登録医制度による病診連携	平成18年4月 登録医制の実 施		
登録医件数	医科 176件 歯科 123件	医科 176件 歯科 123件	医科 175件 歯科 124件
紹介患者数	6,759人 (H17 6,790人)	7,053人	6,773人
◆ 医療情報システムの拡充	平成18年9月にオーダリングシ ステムを更新 PDAの導入	平成19年4月 レセプトオンラ イン請求の開始	平成20年7月 医用画像配信 機器(PACS)の導入
◆ DPCの導入	平成18年7月からDPC導入		
◆ 情報公開の推進		平成19年10月 ホームペー ジ(HP)に経営情報のコンテ ツを追加	平成20年6月 HPをリニュー アル 平成21年2月 HPに薬や検 査に関するQ&A情報を追加
◆ 経費の縮減	・平成18年4月 職員給与の 市独自削減 ・後発医薬品(ジェネリック)の採 用促進 ・省エネルギー診断の実施	・平成19年4月 地域給導入 など給与構造見直し ・平成19年4月 診療器材滅 菌業務の委託化 ・省エネルギー計画立案と実 施	・PACSの導入によるフィルム レス化 ・診療器材滅菌業務委託の 拡大
◆ 臨床研修での参加型学生実習の推進	旭川医大学生5, 6年次の臨 床実習受入	旭川医大学生5, 6年次の臨 床実習受入	旭川医大学生5, 6年次の臨 床実習受入
◆ 卒後臨床研修医の受入	研修医12名受入 (後期研修含む)	研修医12名受入	研修医11名受入
◆ 救急医療受入体制の充実	[救急外来] 救急処置室等面積約167㎡ 救急専用ベット7床確保(告 示病床数は3床)		[救急外来] 病棟再編により、救急専用 ベットを3床とする。(救急患 者も各科病床で直接受入)
救急外来患者数	8,834人 (H17 8,608人)	7,609人	6,952人
「救急外来委員会」	委員会8回開催 その他消防と打合せ 救急蘇生講習会実施	委員会4回開催 その他消防と打合せ 救急蘇生講習会実施	委員会4回開催 その他消防と打合せ 救急蘇生講習会実施

平成21年度の病院運営に係る主な取組状況

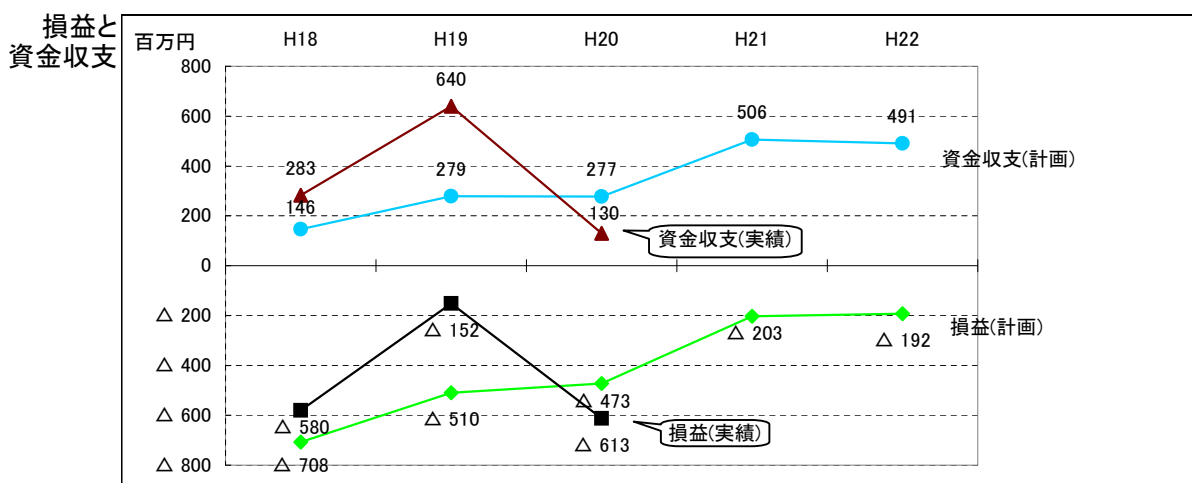
「重点施策項目」

- ◆ 高度・特殊・先進医療の推進
- ◆ 外来棟診療体制の再編
- ◆ 高度医療器械の整備
- ◆ 情報公開の推進
- ◆ 経営改善
経費の縮減 ほか

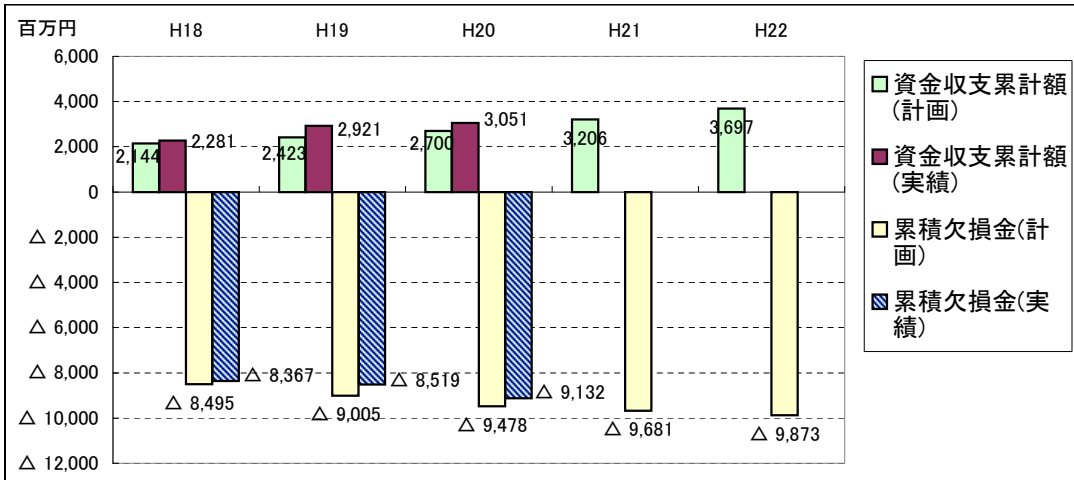
「取組の状況」

- ⇒ ・地域がん診療連携拠点病院に指定
(指定期間 H21.4～H25.3)
・平成21年4月 地域医療連携室を拡充し、がん相談支援センターを開設
- ⇒ 平成21年6月 セカンドオピニオン外来の開設
- ⇒ 循環器系X線診断装置(心カテ装置)の更新
- ⇒ 平成21年7月 ホームページに医療事故等の発生状況を公表
- ⇒ ・平成21年4月 地方公営企業法の全部適用
病院事業管理者を配置
・病床数の適正化と利用率向上(許可病床数588→563)
・病院事業管理者のもとに「経営改善戦略ワーキンググループ」を設置
・平成21年7月 病院機能評価Ver6.0の受審
・平成21年7月 病院ボランティアの活動を開始

経営計画と実績(財政状況)



累積欠損金と資金収支累計額



経営収支見通しと実績対比

(税抜)

(単位：百万円)

目標

年 度		18年度(計画)	18年度(決算)	決算-計画	19年度(計画)	19年度(決算)	決算-計画	20年度(計画)	20年度(決算)	決算-計画	22年度(計画)
収益的 収支 (損益)	医業収益	10,195	10,105	△ 90	11,271	10,694	△ 577	11,283	10,385	△ 898	11,283
	医業外収益	1,092	1,106	14	988	996	8	1,040	1,040	0	1,016
	収益 合計	11,287	11,211	△ 76	12,259	11,690	△ 569	12,323	11,425	△ 898	12,299
	医業費用	11,237	11,044	△ 193	12,026	11,121	△ 905	12,073	11,344	△ 729	11,799
	うち給与費	5,133	5,160	27	5,605	5,259	△ 346	5,720	5,520	△ 200	5,550
	材料費	3,465	3,288	△ 177	3,638	3,258	△ 380	3,606	3,169	△ 437	3,543
	医業外費用	729	726	△ 3	725	708	△ 17	707	684	△ 23	674
	特別損失等	29	21	△ 8	18	12	△ 6	16	10	△ 6	18
	費用 合計	11,995	11,791	△ 204	12,769	11,841	△ 928	12,796	12,038	△ 758	12,491
	経常損益	△ 679	△ 559	120	△ 492	△ 139	353	△ 457	△ 603	△ 146	△ 174
	準損益	△ 708	△ 580	128	△ 510	△ 152	358	△ 473	△ 613	△ 140	△ 192
	△累積欠損金	△ 8,495	△ 8,367	128	△ 9,005	△ 8,519	486	△ 9,478	△ 9,132	346	△ 9,873

(税込)

年 度		18年度(計画)	18年度(決算)	決算-計画	19年度(計画)	19年度(決算)	決算-計画	20年度(計画)	20年度(決算)	決算-計画	22年度(計画)
資本的 収支	企業債	150	150	0	120	110	△ 10	180	190	10	250
	出資金・負担金	543	531	△ 12	547	549	2	538	557	19	583
	収入 合計	693	681	△ 12	667	659	△ 8	718	747	29	833
	建設改良費	245	222	△ 23	225	221	△ 4	280	323	43	350
	企業債償還金等	735	736	1	742	741	△ 1	743	742	△ 1	844
	支出 合計	980	958	△ 22	967	962	△ 5	1,023	1,065	42	1,194

資金 収支	当年度資金収支	146	283	137	279	640	361	277	130	△ 147	491
	資金収支累計額	2,144	2,281	137	2,423	2,921	498	2,700	3,051	351	3,697

中期経営計画【経営指標】の実績と評価

中期経営計画

(目標)

目標	指標	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
財政収支向上	経常収支比率	94.3%	96.1%	96.4%	98.5%	98.6%
	単年度資金収支	146百万円	279百万円	277百万円	506百万円	491百万円
	資金収支累計額	2,144百万円	2,423百万円	2,700百万円	3,206百万円	3,697百万円
患者の確保	病床利用率(感染病床除く)	83.1%	87.6%	87.6%	87.6%	87.6%
	1日当り入院患者数	483.4人	510人	510人	510人	510人
	1日当り外来患者数	1,183.7人	1,300人	1,300人	1,300人	1,300人
収益の確保と費用の抑制	入院収益単価	43,441円	45,407円	45,593円	45,593円	45,593円
	外来収益単価	8,271円	8,379円	8,379円	8,379円	8,379円
	医業収益対職員給与費比率	46.4%	45.7%	46.7%	45.0%	45.2%
	医業収益対材料費比率	33.8%	32.1%	31.8%	31.5%	31.3%
企業債の抑制	企業債残高	18,085百万円	17,464百万円	16,902百万円	16,271百万円	15,677百万円

(49%以下)

(32%以下)



実績(決算)

(決算)

(決算)

(決算)

目標	指標	平成18年度	平成19年度	平成20年度	対計画増減	評価
財政収支向上	経常収支比率	95.3%	98.8%	95.0%	△1.4	○
	単年度資金収支	283百万円	640百万円	130百万円	△147百万円	
	資金収支累計額	2,281百万円	2,921百万円	3,051百万円	+351百万円	
患者の確保	病床利用率(感染病床除く)	82.3%	82.8%	80.2%	△7.4	×
	1日当り入院患者数	478.8人	482.2人	466.6人	△43.4人	
	1日当り外来患者数	1,182.2人	1,223.2人	1,142.4人	△157.6人	
収益の確保と費用の抑制	入院収益単価	43,198円	44,589円	44,212円	△1,381円	○
	外来収益単価	8,338円	8,891円	9,618円	+1,239円	
	医業収益対職員給与費比率	47.1%	45.6%	49.7%	+3.0	
	医業収益対材料費比率	32.4%	30.3%	30.4%	△1.4	
企業債の抑制	企業債残高	18,085百万円	17,454百万円	16,901百万円	△1百万円	○

(各指標は、総務省決算状況調査等の算出法による)

計画を上回る	~◎
ほぼ計画の範囲内	~○
努力又は計画の見直しが必要	~×

評価の考え方

【財政収支向上】

- 1 平成20年度は、収益（医業収益）が計画を大きく下回ったことより、経常収支が悪化している。（×）
- 2 平成20年度で経常収支、資金収支とも計画を下回ったものの、19年度までの収支が計画を大幅に上回っていたため、収支悪化の影響を吸収し、20年度末の時点としては、ほぼ計画通りの財政状況を維持している。（○）

【患者の確保】

- 1 平成20年度の患者数は、外来・入院とも計画（見通し）を大きく下回った。（×）
- 2 平成20年度の入院患者数については、年度の後半から整形外科医師の退職に伴う入院患者の受入制限があったことで大幅に減少し、病床利用率の低下に繋がった。（×）

【収益の確保と費用の抑制】

- 1 平成20年度の入院収益単価の減については、主に外科・整形外科等の手術件数の減による。（×）
- 2 外来収益単価は、外来化学療法の実施等により計画を上回っている。（◎）
- 3 平成20年度の医業収益対職員給与費比率は、医業収益の減により比率が上昇し、49%以下とした目標をオーバーしている。（×）
- 4 医業収益対材料費比率は、フィルムレス化の効果もあって大きく減少し、目標をクリアしている。（◎）

【企業債の抑制】

- 1 企業債残高は計画どおり。（○）

評価の総括

次期経営計画の策定に向けて

<患者及び収益の確保>

- (1) 経常収支目標98.6%を達成するには、平成19年度実績程度の医業収益の確保が必要であり、今後も高度医療に力点を置き、病診連携の一層の推進を図り、収益単価の向上と患者の確保に向けた努力が必要である。
- (2) 整形外科医の退職による常勤医不在の問題に対して、早急に解決を図る。

<費用の抑制>

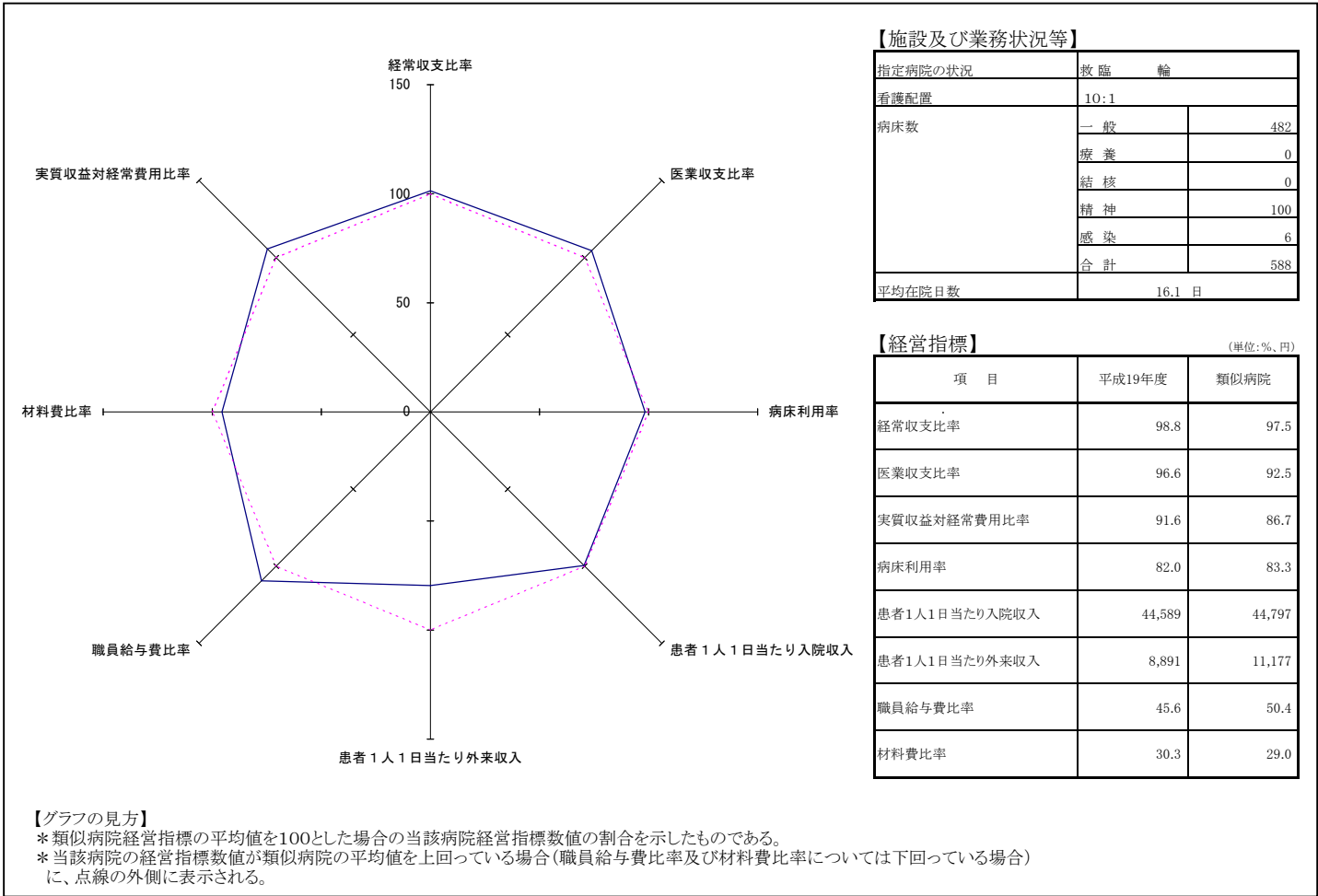
- (3) 材料費比率は低下しているが、材料費の内訳として薬品費の比率はなお高い状況にあるので、引き続きその推移に注意し、原因分析及び抑制について検討する。
- (4) 費用の管理には、委託も多額となることから注意が必要である。

<次期計画の検討>

- (5) 患者数は減少傾向にあり、また患者1人当たりの収益（入院・外来）も目標と乖離している状況から、予算（目標）患者数の設定を再検討する。
- (6) 次期計画では、総務省が示す「公立病院改革ガイドライン」の考え方に基づき、経常収支比率100%を目標とした計画策定が必要である。

主要指標の類似病院との比較

都道府県名 北海道
 市町村・組合名 旭川市
 病院名 旭川病院



【収支構造】

- 経常収支比率 $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
 病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上であることが望ましい。
- 医業収支比率 $\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
 医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上であることが望ましい。
- 実質収益対経常費用比率 $\frac{\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}}{\text{経常費用}} \times 100$
 経常費用が経常収益から他会計繰入金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が100%以上であることが望ましい。

【収入構造】

- 病床利用率 $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
 病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要があります。
- 患者1人1日当たり入院収入 $\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$
- 患者1人1日当たり外来収入 $\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$
 病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と1人当たりの収入という質的な要素が重要になります。

【費用構造】

- 職員給与費比率(職員給与費対医業収益比率) $\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$
 病院の職員数等が適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなります。
- 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\frac{\text{材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$
 病院において材料費は、職員給与費に次いで大きなウェイトをしめる医業費用。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の節減を図る必要があります。

市立旭川病院 中期経営計画
中間実績評価書

平成21年(2009年)11月
市立旭川病院事務局 経営管理課
〒070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号
電話 0166-24-3181
Eメール h_keieikanri@city.asahikawa.hokkaido.jp